

2. 書の文化の伝承

◎第11回大仏書道大会「書くことは楽しい in 奈良」を開催

実施日 令和2年11月14日(土)～15日(日)

会場 東大寺大仏殿西回廊

11月14日(土)から15日(日)の2日間、東大寺大仏殿西回廊に於いて、「第11回大仏書道大会」の書道展を開催しました。本年は、コロナ禍での開催につき、三密を避けるなど感染拡大防止策を講じての開催となりました。

当書道展は、平城遷都1300年を記念して始まり、以降毎年開催し今年で第11回目を迎えました。書の可能性を感じさせるような作品、単なる教科書的な技術だけではなく、自由な感性、創造性や味わい深さなども加味し光をあてる稀有な大会として、全国から毎年多数の応募をいただいています。今回はコロナ禍で学校の行事日程の変更や部活動が制限されるなど、作品の募集に大きな影響が出るものと案じられましたが、関係する多くの方々のご協力もあり、全国72の高校・大学から1492点の応募を頂くことができました。

同書道展にさきがけ10月27日には、朝日新聞社奈良総局において森本公誠・東大寺長老(当フォーラム理事・特別顧問)を審査委員長に迎え、奈良県教育委員会の書道担当職員、高校や大学の書道教員の方々に審査に携わっていただき、7点の特別賞と93点の入選作品を選定しました。

筆で書く楽しさが伝わってくる作品、若者らしい意欲的で力強い作品など個性を發揮した作品が数多く見られました。

また、優れた作品を多数応募された団体に贈られる奨励賞には、滋賀県立甲西高等学校、兵庫県立伊川谷北高等学校、京都府立洛西高等学校の3校が選ばれました。

今年も受賞作品100点を大仏殿西回廊に展示し、入選者や学校関係者をはじめ参拝客や観光客の方にも観覧していただき、700名余りの来場を得ました。

なお、15日に開催予定の席書会は新型コロナウイルス感染拡大防止策として三密を避けるため、関係者と協議し中止いたしました。



審査会の様子(朝日新聞社奈良総局)



展覧会の様子

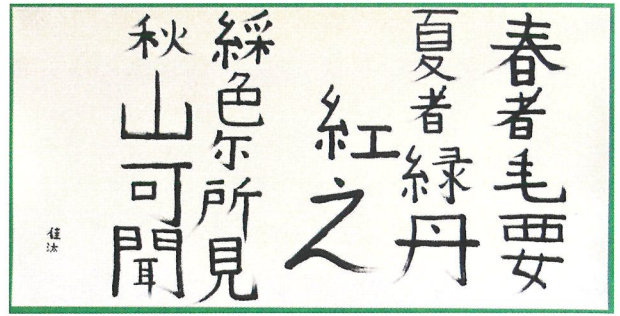
特別賞（7点）

奈良県知事賞「紅葉」

齋藤佳汰さん（東京都・共栄学園高校）

この季節にふさわしい万葉集を当時の表記である万葉仮名で書いたものです。「春者毛要夏者緑丹紅之
はるはも(冊)えなつはみどりにくれないの
綵色尔所見 秋山可聞」
まだらにみゆる あきのやまかも

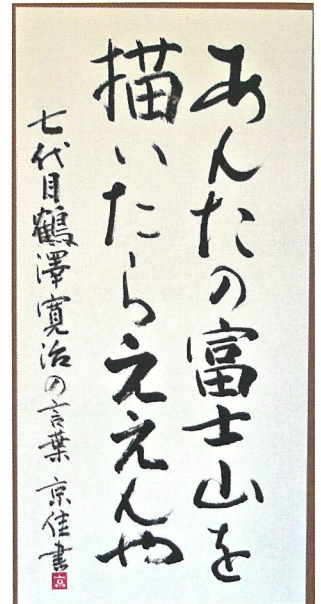
淡々とした筆運びは一貫しており、文字の大小の変化は自然で作意がありません。うまく余白ができ、この作はこれ一枚しか書けないかもしれません。天平の秋を思わせる素朴で好感の持てる作品です。



奈良県教育長賞「75億個の富士山」

山本京佳さん（京都府立北嵯峨高校）

「いい言葉ですねー！」と審査員一同が見入った作品です。（鶴澤寛治は文楽義太夫節三味線型の名跡）この方の言葉を作者はしっかりと受け止め、「75億個（世界人口）の富士山」と題して皆が自信を持つようにと願い、堂々とした筆使いで書き上げました。筆墨によるこの二行の書は、活字で読むより見る人の心に届きます。



奈良市長賞「麗」

熊倉楓太さん（新潟県立新津南高校）

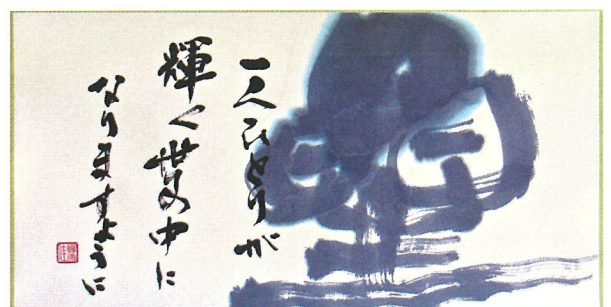
独特の線質は孔雀の羽の筆なのですね。動きのある行書体の筆を止めず、左に空間を生みながら紙面いっぱい展開しました。「麗」の一字が絵画のようです。大きく腕を回して書く様子が目に浮かびます。作者の高校生活は学業と書に研鑽し、何より筆墨を愛し書を楽しんだことが生きいきと伝わってきます。



奈良市教育長賞「星」

樋口真奈佳さん（福岡県立糸島高校）

墨の青いにじみが効果的です。湯(かす)れのまま一気に筆を運び最後は宇宙に続くイメージでしょうか。星の古い字形は、上部が日(太陽)ではなく晶(多くの星が光り輝く形)に作ります。左のメッセージの…輝く…と、この篆書体の星の造形が重なり、作者の思いが存分に感じられる作品となりました。



東大寺賞 「密」

中村千尋さん（大阪府立金岡高校）

大仏さんもコロナにかからないようにマスクを付けたとのこと。若者らしい心温まるユーモアに「今年はこれ！」と森本長老が東大寺賞に選ばれました。並んだ仏達、その上部の空間には中央に一文字のみ「密」と書き、その左右には何も書かなかった!! 余白を作ったこの構成に意味が生まれ、平安を感じる一幅となりました。



朝日新聞社賞 「輪廻」

河野日佳莉さん（大阪府・四天王寺大学）

一文字目の絵画をりんごの芯のように二文字目の図は赤いりんごをイメージしてくるくる廻した線で表現しました。自分にしか書けない「輪廻」を書く！という創作で最も大切な姿勢がこの作品から伝わります。りんごは中国では「苹 (píng) 果 (guǒ)」「平 (píng) 和 (hé)」と音通のため好まれます。作者の願いに教養の一端も伺え、詩書画一体の作となりました。



奈良 21 世紀フォーラム理事長賞 「転心」

森本智仁さん（奈良・東大寺学園高校）

牛乳を使った「白抜き」の技法は、時々目にしますが、この牛乳を霧吹きに入れ、スプレーのように出して書いたとのこと。非凡な発想です。よく太さの変化が出せたものです。高校生活で慣れ親しんだ「転心殿」それと同じ位、隷書を好み書き込んだことが見て取れます。作者は自分の技術を越えた試みをしたかったのでしょうか、このような若者の将来は楽しみです。

